

令和5年度 須恵町教育委員会の権限に属する  
事務の管理及び執行の状況の点検及び報告書

令和 6 年 4 月

須恵町教育委員会

## 目 次

第1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1 p
第2	須恵町教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1 p
第3	須恵町教育委員会の基本方針【教育大綱】と基本目標と基本施策【第三期 須恵町教育振興基本計画】について	2 p～5 p
第4	須恵町教育委員会の令和5年度活動の概要について	5 p～6 p
第5	第三期須恵町教育振興基本計画に係る評価及び進捗状況 <b>I 0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育の充実</b> ① 人・学び・組織をつなぐ体制の整備	7 p～8 p
	<b>II 心の教育を推進し、感動・感謝・共感できる豊かな感性を持った「ひと」の育成</b> ① 豊かな心の育成 ② 確かな学力の育成 ③ 健やかな体の育成	8 p～11 p
	<b>III 安全・安心で快適な教育環境の整備の充実</b> ① 教職員の指導力・組織力の向上 ② 学校施設及び設備の充実	11 p～12 p
	<b>IV 生涯教育の充実</b> ① 生きがいを育み、活力ある地域社会をつくる社会教育事業の推進 ② 地域・学校・家庭が一体となった青少年健全育成の推進 ③ ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ④ 心を豊かにする文化活動の推進と基盤整備 ⑤ 基本的人権が尊重される教育の推進 ⑥ 生涯にわたり学び続け、本と人との橋渡しによる 暮らしに役立つ図書館の充実	12 p～15 p
	<b>V 子どもと家庭を支える環境づくり</b> ① 待機児童の解消 ② 多種多様で質の良い保育サービスの確保 ③ 児童虐待の防止	15 p～16 p
	「令和5年度須恵町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び報告書」に対する意見(評価)書	17 p～21 p

## 第1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正により、毎年、その権限に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされた。

## 第2 須恵町教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

### 1 点検及び評価の目的

- (1) 須恵町教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行うことにより、課題や今後の方向性を的確に把握し、より良い教育行政を推進する。
- (2) 点検及び評価の結果を議会に提出するとともに、町民に公表することにより、須恵町教育委員会が行う事業の普及・啓発を推進し、「教育のための町づくり」の具現化を図る。

### 2 点検及び評価の対象

須恵町教育委員会施策及び第三期須恵町教育振興基本計画で提示した具体的施策

### 3 点検及び評価の方法

- (1) 点検及び評価は、当該年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年1回実施する。
- (2) 事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- (3) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。
  - ① 「点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。
  - ② 「点検・評価に関する有識者」の任期は3年とする。

令和4～6年度 福岡教育大学教職大学院 特任教授 川島耕司氏に委託

- (4) 教育委員会において、点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を須恵町議会に提出する。また、報告書は公表するものとする。

### 第3 須恵町教育委員会の基本方針【教育大綱】と教育政策・基本施策【第三期 須恵町教育振興基本計画】について

令和5年度4月に、第七次須恵町総合計画の試案が策定された。また、新たに教育大綱が位置づけられた。

教育大綱基本方針では、先行き不透明なこれからの時代、どのように社会や産業が変化しても、「ひとづくり」の基本は、先人の知恵に学んだり体験を積み重ねたりして培われた「心の教育」にあるとし、心の教育を須恵町教育の根幹とし、次の4つの教育方針から社会総がかかりで教育を推進し、職業的・社会的に自立した「ひとづくり」を目指していくと示されている。

教育政策1 「0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育の充実」

教育政策2 「心の教育の推進と豊かな感性をもつ『ひと』の育成」

教育政策3 「安全・安心で快適な教育環境の整備・充実」

教育政策4 「生涯教育の充実」

これらの教育大綱の基本方針を具現化すべく第三期須恵町教育振興基本計画及び基本施策を提示した。

### 第三期 須恵町教育振興基本計画の基本的な方針と目標及び施策群

#### 基本方針1 0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育を充実させる

目標1 人・学び・組織をつなぐ体制の整備

施策群

- 「成長のあしあと」「指導メモ」を活用した教育相談の実施
- スクールソーシャルワーカーや教育支援センター（やまももルーム）を要とした教育相談体制の充実
- 関係支援団体等との連携

#### 基本方針2 心の教育を推進し、感動・感謝・共感できる豊かな感性を持った「ひと」を育てる

目標2 豊かな心の育成

施策群

- 「成長のあしあと」と「キャリア・パスポート」を使った学級活動（3）【一人一人のキャリア形成と自己実現】の実施
- いじめに対する「未然防止」「早期発見」「早期対応」の組織的な実施

- 特別の教科 道徳を要とした道徳教育の推進

- 論語教育の推進

### 目標 3 確かな学力の育成

#### 施策群

- 学力向上検証委員会による全国学力調査・県学力調査の分析と授業改善の推進

- 四分位層（C・D）の改善に焦点化した授業改善の推進

- ICT等を活用した多様な家庭学習方法の推進

- ICT等を活用した効果的な学習指導の推進

### 目標 4 健やかな体の育成

#### 施策群

- 運動が苦手な子どもに視点を当てた取組の実施

- 一校一取組運動の徹底

- 社会教育課と連携した持続可能な部活動の推進

- 部活動の地域移行に関する検討委員会による移行に係るロードマップの作成と計画的な移行の推進

## **基本方針 3 安全・安心で快適な教育環境の整備を充実させる**

### 目標 5 教職員の指導力・組織力の向上

#### 施策群

- 小中学校の教員へのメンタリングや町内留学による効果的な人材育成

- 校務支援ソフトの活用の推進

### 目標 6 学校施設及び設備の充実

#### 施策群

- 幼小中学校施設の長寿命化

- 学校 ICT 環境の整備

## **基本方針 4 生涯教育を充実させる**

### 目標 7 生きがいを育み、活力ある地域社会をつくる社会教育事業の推進

#### 施策群

- 社会教育関係団体と連携・協働による社会教育活動の充実

- 分館長会議や分館主事の会などを通して分館活動の支援・充実

- 分館助成金や類似公民館の改修等に対し、補助金交付による支援

## 目標 8 地域・学校・家庭が一体となった青少年健全育成の推進

### 施策群

- 子どもを対象とする各種事業実施にあたり、分館を通して幅広い参加を促し、安全な事業運営の推進
- 地域と学校で情報を共有した地域防犯力の向上
- 各種事業を通じた自主的、主体的活動の支援

## 目標 9 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

### 施策群

- スポーツを通じて、町民の健康づくり・生きがいくりの支援
- スポーツに関する研修会やイベントを定期的実施し、町民がスポーツに触れる機会の提供

## 目標 10 心を豊かにする文化活動の推進と基盤整備

### 施策群

- アザレアホールや久我記念館において、作品展示会を開催して町民の芸術鑑賞機会の提供
- 文化協会や各種サークル活動の発表機会など活動支援
- 文化財の保存、整備、活用を図り、文化財保護の普及

## 目標 11 基本的人権が尊重される教育の推進

### 施策群

- 町民一人ひとりが、人権を尊重することを理解するための啓発活動の推進
- 上映会や講演会などの啓発事業を通じて、人権意識の高揚

## 目標 12 生涯にわたり学び続け、本と人との橋渡しによる暮らしに役立つ図書館の充実

### 施策群

- 地域に密着した情報や利用者の求める資料を提供して生涯学習をサポートする機能の充実
- 運営方針及び子ども読書活動推進計画に基づき、学校図書館・各種団体・行政各課と連携を図り、町民の読書活動の充実
- 多様なニーズに対応するためのイベントや講座を通じて、図書館サービスの提供を拡大し、より多くの町民の暮らしに役立つ図書館運営

## **基本方針5 子どもと家庭を支える環境をつくる**

### 目標13 待機児童の解消

#### 施策群

- 幼稚園・保育園の定員の見直し
- 一時預かり事業の実施及び利用促進

### 目標14 多種多様で質の良い保育サービスの確保

#### 施策群

- 延長保育の実施及び利用促進
- 病児保育の実施及び利用促進

### 目標15 児童虐待案件の対応数100%

#### 施策群

- 児童虐待の防止の充実
- 日常的な育児相談機能の充実

## **第4 須恵町教育委員会の令和5年度活動の概要について**

今年度より、各園・学校・関係各課において、第三期教須恵町育振興基本計画の具体的な推進を図った。教育委員会の重点目標として、感動・感謝・共感の「心の教育」を第一に掲げており、令和5年度の教育委員会としては、子ども、教師共に「**賢明な指し手を支える**」ことを目指している。そのためには、『主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善』を推進し、各園・学校の主体性が必要である。教育委員会としては、現場目線に立った教育支援の充実を図ることを重点的に取り組み、園・学校が子どもの実態に合った教育活動が展開できるように支援してきた。また、0歳から15歳までの子どもたちの教育において、人をつなぐ(子ども、教師、地域の人をつなぐ)、学びをつなぐ(園・小学校・中学校の教育活動をつなぐ)、組織をつなぐ(家庭と園・学校、地域そして行政をつなぐ)という連携・連動した教育を推進してきた。

園、学校における特に効果が上がっている活動概要は、以下のとおりである。

## 1 幼稚園では

- (1) 南幼稚園の開園に向けて、幼保小架け橋プログラムの推進や効果的な教育活動や人材育成を図るために、積極的な研修奨励を行い、町内園が連携した合同研修会や幼保小の連絡会を定期的に開催した。
- (2) 虐待の未然防止と家庭支援のために、要保護児童対策地域協議会の特定妊婦、未就学児部会に参加し、情報を共有するとともに保護者との連携を図るために、SSWに専門的な助言をしてもらった。
- (3) 園児の心の教育の充実のために、計画的に講師を招聘して論語教室を開催した。また、発達相談との連携を密に行い、保育の充実を図った。

## 2 学校教育では

- (1) 今年度から中学校での論語の素読も行き、心の教育の推進を図った。また、全ての小中学校で i-check (総合質問紙調査) を年間 2 回実施し、その結果分析を行い、教育活動の評価・点検をおこなった。
- (2) 学力向上では、全国学力・学習状況調査や県学力調査結果分析を基にして、非認知能力の育成を踏まえた上で、学力向上プランの作成を行い、児童生徒の実態に即した授業改善や指導体制の充実を図った。
- (3) 生徒指導では、新規不登校児童生徒を生まない教育活動の実施に重点的に取り組むとともに、いじめ問題、虐待など、SC、SSW、関係機関と連携して組織的な対応を図った。
- (4) 特別支援教育の充実では、適正な教育支援委員会の運営を行うために、判定をするための基礎資料と別に個別の指導計画を添付するなど、学校での支援の様子が判断の根拠となるように工夫した。また、須恵町教育委員会主催での特別支援担当者の研修を年 4 回実施した。

## 第5 令和5年度第三期須恵町教育振興基本計画に係る評価及び進捗状況

須恵町第三期教育振興基本計画に係る評価及び進捗状況については、5つの基本方針の下、実効性のある教育精査を進めるため、次のように整理した。

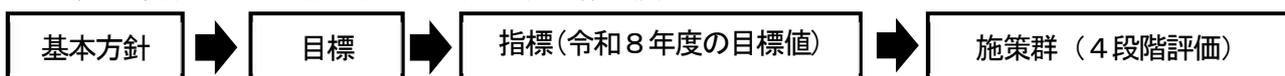
◎ 教育政策の目標

◎ 目標の進捗状況を把握するために指標（令和8年度の目標とする内容）

全国標準化得点…全国の平均値を100としたときの本町の値

県標準化得点 …福岡県の平均値を100としたときの本町の値

目標を実現するために必要となる施策群（4段階評価）



目標の達成状況を指標で測定しながら、施策の改善・充実を図る。

### I 0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育を充実させる

①目標1 人・学び・組織をつなぐ体制の整備

指標

- 「あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人にとって、かけがえない存在であるということを知っている」肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

	現状値(R5 12月)		現状値(R5 12月)
小3	104.83	中1	105.83
小4	95.76	中2	114.43
小5	98.74	中3	109.86
小6	103.51		

- 「学校に行くのは楽しいと思う」肯定的な回答の割合が県標準化得点100以上【全国学調】

	現状値(R5 年度)		現状値(R5 年度)
小学校	97.63	中学校	97.90

- 小中学校の新規不登校の割合が1%以内

	現状値(R5 年度)		現状値(R5 年度)
小学校	2.00%	中学校	3.07%

- 園・小・中学校の教職員の「他機関と連携することで教育活動が充実した」という割合が3.2ポイント以上（4段階評価）【独自調査】

現状値(R5 年度)
3.75

● 関係支援団体等が行う子ども育成に関する事業の増加【独自調査】

現状値 (R5 年度)
8 団体

コミュニティ、社会福祉協議会、社会教育施設、生活規範指導員  
サポートセンター、放課後デイサービス、福岡キッズニア、PTA 役員

施策群（施策の下の文章表記は、□：成果 ■：課題を記載しています）

	施 策	評価 (4 段階)
1	「成長のあしあと」「指導メモ」を活用した教育相談を実施することができた。	3.3
2	SSWや教育支援センター（やまももルーム）を要とした教育相談体制の充実を図ることができた。	3.5
3	関係支援団体等の連携を図ることができた。	3.5
	<input type="checkbox"/> 「成長のあしあと」の記入時期や教育相談を行事予定表に明記し、児童一人一人の教育相談を実施した。 <input type="checkbox"/> 「指導メモ」、児童引継ぎに向けて、生徒指導担当者会で協議をし、利活用しやすいものへと改善をはかっている。 <input type="checkbox"/> 巡回発達相談に来園してもらい、気になる子への援助の仕方などアドバイスをもらうことで保育の充実を図ることができた。 <input type="checkbox"/> SSW、教育支援センターとは不登校の対応として効果的に連携を図ることができた。 <input type="checkbox"/> 児童発達事業所とも連携し、互いに見学の機会をもつなど、集団、個別でのかかわりなど共通理解を図り、指導の手立てとすることができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 成長のあしあとの活用方法について効果的に活用できるよう工夫していく必要がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の支援団体とも連携・協力が行えるようにしていく。	

## II 心の教育を推進し、感動・感謝・共感できる豊かな感性を持った「ひと」を育てる

ここでの「感動・感謝・共感」の言葉について次のように定義する。

**感動**・・・美しいものや気高い教養に心動かされること

**感謝**・・・人の支えや善意により、日々の生活や現在の自分があることを感じる

**共感**・・・それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方・考え方に触れること

したがって、「感動」「感謝」「共感」できる心を持った子どもを育成するために、以下の3つの目標達成に向けた施策に取り組んでいく。

### ①目標2 豊かな心の育成

#### 指標

- 「自分には、いいところがあると思う」肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

	現状値 (R5 12 月)		現状値 (R5 12 月)
小5	94.89	中1	100.00
小6	95.22	中2	109.38
		中3	107.86

- 「将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がある」肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

	現状値 (R5 12月)		現状値 (R5 12月)
小3	101.14	中1	95.17
小4	100.57	中2	105.00
小5	95.93	中3	107.79
小6	99.64		

- いじめとして認知した事案の解消率を80%以上

	現状値 (R5 年度)		現状値 (R5 年度)
小学校	82.4%	中学校	82.2%

※ いじめが解消している状態とは次の2つの要件が満たされている必要がある。

- ① いじめに係る行為が止んでいること。  
「被害者に対する心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）がやんでいる状態が相当の期間継続【3ヶ月を目安】していること」
- ② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと。  
被害児童生徒及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

#### 施策群

	施 策	評価(4段階)
4	「成長のあしあと」と「キャリアパスポート」を使った学級活動(3) 【一人一人のキャリア形成と自己実現】の実施	2.8
5	いじめに対する「未然防止」「早期発見」「早期対応」の組織的な実施	3.6
6	特別の教科道徳を要とした道徳教育の推進	3.6
7	論語教育の推進	3.5
	<input type="checkbox"/> 「キャリアパスポート」については、学校行事等の取組後の振り返りにおいて有効活用ができて いる。 <input type="checkbox"/> いじめについては、2軸3類4層構造を意識して対応することができている。 <input type="checkbox"/> 保育室に今月の論語と意味を掲示し、毎日3回論語の素読を行っている。また、論語の意味を 知らせるようにしていることで友達の思いやりの姿に気づきほめる様子が見られるようになっ た。 <input type="checkbox"/> 全学年で、「論語」の取組(毎日の素読、学期に一度の外部講師による指導等)を実施すること で、人間力の向上へとつなげることができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 「成長のあしあと」について学級活動(3)で活用できているものの、意図的・計画的に実施す る必要がある。 <input checked="" type="checkbox"/> キャリアパスポート記入・活用を総合的な学習の時間などに明確に位置付けて、キャリア教育 の推進を図る必要がある。	

②目標3 確かな学力の育成

指標

- 全国学力・学習状況調査の県標準化得点が100以上

小学校	現状値(R5 12月)	中学校	現状値(R5 12月)
国語	100.00	国語	100.00
算数	98.39	数学	103.92

- 全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の四分位層(C+D)の割合が40%以下

小学校	現状値(R5年度)		中学校	現状値(R5年度)	
	国語	算数		国語	算数
小5	40.5%	52.5%	中1	45.6%	40.6%
小6	44.1%	51.2%	中2	47.7%	52.7%
			中3	39.7%	45.4%

- 学校の授業時間以外に、平日1日当たりの勉強時間が1時間未満の子どもの割合の県標準化得点が100以下【全国学調】

	現状値(R5年度)		現状値(R5年度)
小学校	135.34	中学校	92.40

施策群

	施策	評価(4段階)
8	全国学力調査・県学力調査の分析を行い、授業改善の推進を図ることができた。	3.2
9	四分位層(C、D)層の改善に焦点化した授業改善の推進を図ることができた。	3.2
10	ICT等を活用した多様な家庭学習方法の推進を図ることができた。	3.1
11	ICT等を活用した効果的な学習指導の推進を図ることができた。	3.4
	<input type="checkbox"/> 学力テストの結果分析を研修で行うことを通して、本校の課題を明確にするとともに、主体的・協働的な学習支援の改善について全職員で年間を通して取り組んだ。 <input type="checkbox"/> プレ授業+本時授業+授業整理会を1セットとした研究授業を通して、授業改善を推進することができた。 <input type="checkbox"/> C、D層の改善は、3、4年生は指導法工夫改善教師が、習熟度別に別けて進めているせいか、充実が感じられた。 <input type="checkbox"/> ICTを活用した交流、振り返り活動の工夫を通して、少しずつではあるが、C・D層の児童の学力を引き上げることができた。 <input type="checkbox"/> 主題研修だけではなく、様々な場面でのICTの活用を模索した。そうすることで活用が推進された。 <input checked="" type="checkbox"/> 多様な学びについてのICT機器を活用が不十分である。また、教師による意識の差も大きい。今後は、持ち帰ったPCタブレットの活用の充実が必要である。 <input checked="" type="checkbox"/> 教師間でやや活用頻度にばらつきが生じたICT機器の活用は、さらなる研修を通して、より一層児童が道具として活用できるように工夫する必要がある。	

### ③目標4 健やかな体の育成

#### 指標

- 小学5年と中学2年の体力・運動能力調査の体力合計総合評価（5段階）の「D+E」の県標準化が60以下【体力テスト】

※「D+E」とは、運動能力調査の体力合計総合評価(A～E)の下位段階2つの合計した値

	現状値 (R5 年度)		現状値 (R5 年度)
小学校5年生	113.56	中学校2年生	69.13

- 部活動の休日における地域移行を100%
  - ・今年度は部活動地域移行検討会を5回実施し、移行に向けての協議を重ねてきた。令和6年度よりモデル事業を開始予定。また、拠点校部活動制度を導入する。（須恵中学校：女子ソフトテニス部、須恵東中学校：太鼓部）

#### 施策群

	施策	評価(4段階)
12	運動が苦手な子どもに視点を当てた取組を実施することができた。	3.3
13	一校一取組運動を徹底することができた。	3.1
14	社会教育課と連動した持続可能な部活動の推進を図ることができた	3.3
15	部活動の地域移行に関する検討委員会による移行に係るのロードマップの作成と計画的な移行の推進を図ることができた。	4.0
	<input type="checkbox"/> 今年度は外部講師を招き、毎月2回体育教室を行うことで、運動が苦手な幼児も回を重ねるごとに体の動かし方が分かり、意欲的に取り組むようになった。 <input type="checkbox"/> 長縄跳びを一校一取組に位置付け、全校で長縄跳びを楽しみながらより体を動かす喜びを味わわせた。 <input type="checkbox"/> 「外で身体を動かそう大作戦」（一校一取組運動）については、体育委員会と連携しながら日常の活動として実施することができた。 <input type="checkbox"/> 課題は多いものの、段階的な部活動の地域移行が推進できていると考える。 <input checked="" type="checkbox"/> 体操やリズムダンス、鬼ごっこなど意識して遊びに取り入れてきた。しかし、園舎工事のため園庭が狭くなり、走力の低下が見られ年間を通して広い場で思いっきり体を動かす機会を設けることができなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動の地域移行に向けての外部機関との連携については、実施方法や仕組みが、まだ不十分であり、次年度以降の検討委員会等での更なる協議が必要である。	

## Ⅲ 安全・安心で快適な教育環境の整備を充実させる。

### ①目標5 教職員の指導力・組織力の向上

#### 指標

- 「仕事や生活の満足度」が全国標準化得点105以上【ストレスチェック】

	現状値 (R5 後期)		現状値 (R5 後期)
小学校	110.91	中学校	107.02

分析レポートより

- 「校務支援ソフトが校務の効率化に役立っている」と回答した教職員の平均値が3.2ポイント以上（4段階）【独自調査】

	現状値 (R5 年度)		現状値 (R5 年度)
小学校	3.0	中学校	3.1

#### 施策群

	施 策	評価(4段階)
16	小中学校の教員へのメンタリングや町内留学による効果的な人材育成を図ることができた。	3.2
17	校務支援ソフトの活用の推進を図ることができた。	3.4
	<input type="checkbox"/> 各学年メンターメンティーでのペアリングを行い、授業づくりや生徒指導、学級経営等について協働的に取り組むことができています。 <input type="checkbox"/> 校内で全教職員のメンタリング研修を実施し、資質・能力向上を図った。 <input type="checkbox"/> 道徳授業研を町内留学として活用するなど、人材育成が充実した。 <input type="checkbox"/> 校務支援ソフトについては、全職員が利活用できるようになった。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校によっては、人財育成の取組については、十分に実施することができていない。 <input checked="" type="checkbox"/> メール機能やHP活用などを統合化した校務支援ソフトの充実を図ることも必要である。	

### ②目標6 学校施設及び設備の充実

#### 指標

- 整備計画に沿った実施率100%
  - ・今年度の整備計画としては、須恵第一小学校の北校舎の全面改築であったが、10月末で完了し、現在は3年生児童や特別支援学級、通級指導の教室等で活用。
- 連続する複数月の期間について、各月の超過勤務時間が80時間を超えない教職員を100%

	現状値 (R5 年度)		現状値 (R5 年度)
小学校	98.57%	中学校	62.82%

#### 施策群

	施 策	評価(4段階)
18	幼小中学校施設の長寿命化を図ることができた。	4.0
19	学校 ICT 環境の整備を推進することができた。	3.2
	<input type="checkbox"/> 長寿命化については、今年度は計画通りにすすめることができた。(須恵一小北校舎改築) <input type="checkbox"/> 学校 ICT 環境の整備については、年度当初に Wi-Fi 環境の 10 ギガ回線の整備を実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 回線の整備を行ったが、学校によって差があり、今後は改善を図る必要がある。	

## IV 生涯教育を充実させる

### ①目標7 生きがいを育み、活力ある地域社会をつくる社会教育事業の推進

#### 指標

- 生涯学習講座の受講率90%以上

現状値 (R5 年度)
80.4% (定員総数:397名 受講者数:319名)

施策群

	施 策	評価(4段階)
20	社会教育関係団体と連携・協働による社会教育活動の充実を図ることができた。	3.0
21	分館長会議や分館主事の会などを通して分館活動の支援・充実を推進することができた。	3.0
22	分館助成金や類似公民館の改修等に対し、補助金交付による支援を行うことができた。	4.0
	<input type="checkbox"/> 5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことで、各種行事が一気に再開し、町全体が活気を取り戻した。 <input checked="" type="checkbox"/> 久しぶりの事業運営で、各種主催者が不慣れな点も散見したが、今後もスポーツ協会、文化協会、子ども会育成会、分館主事の会など社会教育関係団体と連携を図り、よりよい事業の展開と分館支援を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> 分館主事の会では、公民館活動に関する情報交換など社会教育関係団体と連携を図り、引き続き住民主導のまちづくりを推進する。	

②目標8 地域・学校・家庭が一体となった青少年健全育成の推進

指標

- 子ども会育成会連絡協議会やその他社会教育団体主催事業の参加者数の増加

	現状値(R5年度)
かるた大会参加者数	69人

施策群

	施 策	評価(4段階)
23	子どもを対象とする各種事業実施にあたり、分館を通して幅広い参加を促し、安全な事業運営の推進を図ることができた。	4.0
24	地域と学校で情報を共有した地域防犯力の向上を図ることができた。	4.0
25	各種事業を通じた自主的、主体的な活動の支援を推進することができた。	3.0
	<input type="checkbox"/> かるたチャレンジやスポーツフェスタ、夏休み映画上映会など子どもを対象とした事業は、新たにSNSにより情報を発信したことで、より幅広く周知が図ることができ、参加者増に繋がった <input type="checkbox"/> 地域防犯力の向上に関しては、青少年指導員全体会において学校、社会教育団体、須恵交番などと情報を共有し、地域防犯力の向上を図ったことで犯罪防止に繋がった。 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年指導員、糟屋警察署補導員による夜間パトロールや町内小中学校、高校教職員をはじめ、PTA、社会教育団体、役場防犯担当係、須恵交番による代表者会を年に5回開催し、地域・学校と連携した青少年健全育成活動を推進していく。	

③目標9 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

指標

- 学校・社会体育施設の利用件数、年間1万件以上

	現状値(R5年度)
学校・社会体育施設の利用件数	7,532件

※令和5年度については、11月までの現状値

施策群

	施 策	評価(4段階)
26	スポーツを通じて、町民の健康づくり・生きがいづくりの支援を行うことができた。	3.0
27	スポーツに関する研修会やイベントを定期的実施し、町民がスポーツに触れる機会を提供することができた。	3.0
	<p>□ 駅伝大会に代わる新たなスポーツイベント「スポーツフェスタ」は、親子で参加できる複合型イベントとして11月に開催した。来年度以降も年齢や障害の有無に関わらず幅広い町民が参加しやすい複合型イベントとしての定着を目指す。</p> <p>■ 部活動地域移行を見据え、指導者を対象とした「みんなのスポーツ研修会」を引き続き開催して人材育成を図る。</p>	

④目標 10 心を豊かにする文化活動の推進と基盤整備

指標

● 社会教育施設の利用件数、来館者数の増加

	現状値 (R5 年度)
アザレアホール利用件数	1,999 件
カルチャーセンター利用件数	760 件
久我美術館来館者数	3,569 人
歴史民俗資料館来館者数	1,760 人

施策群

	施 策	評価(4段階)
28	アザレアホールや久我美術館において、作品展示会を開催して町民の芸術鑑賞機会を提供を行うことができた。	4.0
29	文化協会や各種サークル活動の発表機会などの活動支援を行うことができた。	3.0
30	文化財の保存、整備、活用を図り、文化財保護の普及を推進することができた。	3.0
	<p>□ 11月に町制施行70周年記念事業の一環として20年ぶりに久我記念館で「県立美術館巡回展」を開催し、町内外問わず1033名の方が来館された。アザレアホールでは文化協会主催の「須恵町美術展」の開催をはじめ、九州造形短期大学の学生による写真展やまなビック講座の受講者による作品展も行われ、多くの方々に文化芸術に触れる機会が提供できた。</p> <p>□ 文化財保護に関しては、佐谷建正寺にある県指定文化財「板碑」の保存修理を行った。</p> <p>■ まなビック講座など自主事業や各種団体との連携によって、より多くの町民が文化芸術活動に参画できるよう推進する。</p>	

⑤目標 11 基本的人権が尊重される教育の推進

指標

● 人権・同和教育啓発事業参加者の増加

	現状値 (R5 年度)
同和啓発強調月間記念上映会	事前配布 312 枚
人権学習講演会：須恵中学校で実施	シンガーソングライター ちひろ 氏

施策群

	施 策	評価(4段階)
31	町民一人ひとりが、人権を尊重することを理解するための啓発活動を推進することができた。	3.0
32	上映会や講演会などの啓発事業を通じて、人権意識の高揚を図ることができた。	3.0
	<input type="checkbox"/> 同和問題啓発強調月間となる7月に記念上映会を実施。コロナ禍以前の平成30年度を上回る参加者数を達成した。 <input checked="" type="checkbox"/> 町民一人ひとりが人権を尊重し、差別のない社会の実現に向けて啓発活動を推進する。	

⑥目標 12 生涯にわたり学び続け、本と人との橋渡しによる暮らしに役立つ図書館の充実  
指標

- 図書館入館者数 年間 30,000人以上 貸出冊数 年間 100,000冊以上

	現状値(R5年度)
入館者数	17,975人
貸出冊数	64,109冊

※令和5年度については、11月までの現状値

施策群

	施 策	評価(4段階)
33	地域に密着した情報や利用者の求める資料を提供して生涯学習をサポートする機能の充実を図ることができた。	3.0
34	運営方針及び子ども読書活動推進計画に基づき、学校図書館・各種団体・行政各課と連携を図り、町民の読書活動の充実を図ることができた。	3.0
35	多様なニーズに対応するためのイベントや講座を通して、図書館サービスの提供を拡大し、より多くの町民の暮らしに役立つ図書館運営をすることができた。	3.0
	<input type="checkbox"/> 校区コミュニティと連携し、各小学校行事においてブックリサイクルを実施した。多くの町民に町立図書館としての活動を伝えることができた。 <input type="checkbox"/> 図書館主催の講座やボランティア団体との共同によるイベントは予定通りに実施し、当初の目的を達成できた。 <input checked="" type="checkbox"/> 団体貸出において、小中学校からの利用を伸ばすことができなかった。もっと積極的な働きかけが必要であったと反省している。 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者利用を意図して民生委員会への協力依頼は行ったが、更なる対策をとることができなかった。	

V 子どもと家庭を支える環境をつくる

①目標 13 待機児童の解消  
指標

- 待機児童0人

	現状値(R5年度)
待機児童数	12人

施策群

	施 策	評価(4段階)
36	幼稚園・保育園の定員の見直しを行うことができた。(適切な定員の設定)	4.0
37	一時預かり事業の実施及び利用促進に努めることができた。	3.0
	<input type="checkbox"/> みなみ幼稚園が開園するR6.10から、108名の受け入れが増加する見込みである。 <input type="checkbox"/> 一時預かりについて、広報やホームページで周知した。(R5 12/1 時点 27人) <input checked="" type="checkbox"/> みなみ幼稚園の開園が1年半遅れた	

②目標 14 多種多様で質の良い保育サービスの確保

指標

- 実施事業の利用者数を対前年比より増加

	現状値(R5年度)
延長保育利用者数	385人
病児保育利用者数	55人

施策群

	施 策	評価(4段階)
38	延長保育の実施及び利用促進に努めることができた。	3.0
39	病児保育の実施及び利用促進に努めることができた。	3.0
	<input checked="" type="checkbox"/> 病児保育については、広報やホームページで周知したが、12/1時点においては例年並みである。 <input checked="" type="checkbox"/> 延長保育は年度末にならないと数値がわからない	

③目標 15 児童虐待の防止

指標

- 児童虐待案件の対応率 100%

	現状値(R5年度)
児童虐待案件の対応率	100%

施策群

	施 策	評価(4段階)
40	児童虐待の防止の充実に努めることができた。	4.0
41	日常的な育児相談機能の充実に努めることができた。	4.0
42	子育て支援センター機能事業の充実に努めることができた。	3.0
	<input type="checkbox"/> 即時に対応することにより、重篤な虐待事案は発生していない。	

「令和5年度 須恵町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び報告書」  
に対する意見(評価)書

福岡教育大学教職大学院 教授 川島 耕司

須恵町が教育大綱基本方針の具現化に向け、第三期須恵町教育振興基本計画に示した基本的な方針の下で設定した目標の進捗状況を把握するための指標及び目標を実現するために必要である施策群について学識経験者の視点からその意義を明らかにするとともに評価を行い、下記の通り意見を記述する。

## I 0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育を充実させる

### ① 目標1 人・学び・組織をつなぐ体制の整備

**指標** 「あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人にとって、かけがえのない存在であるということを知っている」 肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

小3～中3まで全国標準化得点を多くが上回っており、そのうち小4及び小5で全国標準化得点を若干下回っているがその差は5ポイント以内であり概ね指標に近づいている。

また、中学生は全国標準化得点 100 を上回っていることから、生徒の多くが家族をはじめ身近な人とのつながりを日常的に意識し、それが自尊感情や自己肯定感を高めているものと思われる。

ただ、肯定的な回答ではなかった小学生もいることをふまえ、その背景を考慮し児童生徒間の人間関係づくりにおいて学校における教育相談等を活用した配慮や日常生活等における見守り等を継続的に行うこと重要である。

**指標** 「学校に行くのは楽しいと思う」 肯定的な回答の割合が県標準化得点100以上【全国学調】

現状値は調査時に登校していた児童生徒の回答であるため、3ポイント近くの児童生徒が不登校に近づく可能性があることから、学校、担任等が家庭と密接に連携しながら具体的な対応をする必要がある。また、前指標との関連性を考慮し、学校が楽しいという意識が児童生徒の自尊感情や自己肯定感を高める機会を増やすことにつながることから、学校における豊かな人間関係づくりの一層の充実が求められる。

**指標** 小中学校の新規不登校の割合が1%以内

不登校傾向を把握する前の早期からの対応が何より重要となる。現状値では中学校における割合がやや高いため、「成長の足あと」「指導メモ」等による小学校からの情報を有効活用することがさらに重要となる。この情報を中学校においては担任をはじめ関係者が共有し、計画的・組織的に対応することになる。これに加え、当該家庭の教育相談機会の充実や支援団体関係者等による心理的なケアの支援等を行えるよう関係人材の位置づけが必要となる。

**指標** 園・小・中学校の教職員の「他機関と連携することで教育活動が充実した」という割合が3.2ポイント以上（4段階評価）

現状値を見ると既に高いポイントであることから、これまで関係の個人、施設、組織、団体等による学校支援が充実・継続されているものと思われる。このことから、須恵町では時間をかけた丁寧な児童生徒への支援が着実に浸透してきていることが明らかであり、「0歳から15歳までをつなぐ一貫した教育を充実させる」ことが具現化されているものと評価される。なお、今後もこの現状値を令和8年度まで維持するためにも、更なる教育活動の充実に向けて、他機関との連携を継続させることが必要である。

## II 心の教育を推進し、感動・感謝・共感できる豊かな感性を持った「ひと」を育てる

### ①目標2 豊かな心の育成

**指標** 「自分には、いいところがあると思う」肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

この現状値をIの① 目標1 人・学び・組織をつなぐ体制の整備の「あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人にとって、かけがえのない存在であるということ、知っている」の回答のうち、特に小5の現状値と重ねてみると児童にとって家族等の身近な存在との関係において自己肯定感、自尊感情が十分に高まっていないことが一つの背景要因と考えられる。このことから、令和5年12月に閣議決定された「子どもの居場所づくりに関する指針」等を参考にしながら小学校5年生だけに限らず学校と家庭の十分な連携を基にした対応が今後求められる。

**指標** 「将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという夢や目標がある」肯定的な回答が全国標準化得点100以上【i-check】

小5については前指標との関連もあるが、中1の現状値に関してはいわゆる中1ギャップの視点から、前及び前々指標の結果を考慮し小学校高学年児童から中学校1年の生徒にかけての接続の在り方を検討する余地があると思われる。例えば、学ぶ意欲を高める学習活動、学級活動、HR活動、クラブや部活動などにおいて児童生徒の個性やよさが発揮される場面を工夫し、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の充実など、自ら意欲的に学びをつくりながら自分のよさに気づくような集団活動などを位置づけた年間指導計画の工夫が求められる。

**指標** いじめとして認知した事案の解消率を80%以上

児童生徒の丁寧な見とりや細やかな児童生徒理解により、いじめの認知が適切に行われるようになるとともに個別の対応も細やかに行われるようになってきている。一方で認知の時期や迅速な対応等の状況から、小中の現状値とも2割程度がいじめを解消できない状況である。このため、いじめられる児童生徒を守る観点から、いじめの早期発見、早期対応は言うまでもなく、何より未然防止の観点から、日常的な学年、学級における人間関係づくりへの配慮やいじめを生まない風土づくりが今後一層求められる。

### ②目標3 確かな学力の育成

**指標** 全国学力・学習状況調査の県標準化得点が100以上

小・中学校ともに県標準化得点に概ね達する数値となっていることは、本調査の開始からこれまで19年間に渡って各学校において常に学力向上に向け児童生徒の実態に応じた授業改善の取組が継続された成果と言える。

**指標** 全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の四分位層(C+D)の割合が40%以下

四分位層(C+D)の割合については、算数・数学において高い傾向が見られる。過年度の調査結果を見ても全国的に数量領域、図形領域に課題が見られたことから、これまでの授業改善をさらに継続するとともに、内容系統に基づき学年を遡った学び直し等の地道な指導により指標を達成することが期待される。

**指標** 学校の授業時間以外に、平日1日当たりの勉強時間が1時間未満の子どもの割合の県標準化得点が100以下【全国学調】

学力向上に向けて各校では学力向上プランに基づき、授業改善、基本的な学習習慣の定着等とともに保護者と連携して家庭学習の習慣化を図る取組が進められてきている。小学校においては、県標準化得点を上回っていることを踏まえ、改めて家庭学習の仕方について何をどのように学習するのか日常の授業内容と関連付けて指導することが求められる。

### ③目標4 健やかな体の育成

**指標** 小学5年と中学2年の体力・運動能力調査の体力合計総合評価(5段階)の「D+E」の県標準が60以下【体力テスト】

児童生徒の体力向上は基本的に学校における体育科学習や部活動に加え、休み時間等の遊びとともに学校外における遊びや個別の体力づくりなどに依るところが大きい。令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等結果を見ても小・中学校男女ともに1週間の総運動時間が「60分未満」がここ数年増加傾向にあることから、児童生徒の運動時間、運動能力に応じた取組の必要性が一層高まっている。例えば、一校一取組運動の同一種目において全校一律種目の取組から学年段階や個別の実態に応じて選択して行うような柔軟な対応が求められる。

**指標** 部活動の休日における地域移行を100%

部活動の地域移行は各市町で地域の実情に応じて段階的な移行を進めており、休日に限っても円滑に実施できるよう地域住民や関係団体等との調整を十分に行う必要がある。このため、一斉の地域移行実施は現状で難しいことから、拠点校部活動制度を今後徐々に拡大することができるよう地域の指導員確保とともに関係課と連携した条件整備が期待される。

## III 安全・安心で快適な教育環境の整備を充実させる。

### ①目標5 教職員の指導力・組織力の向上

**指標** 「仕事や生活の満足度」が全国標準化得点105以上【ストレスチェック】

教職員のストレス軽減及び負担感解消についてはメンタリング、協働的な運営等各学校で工夫した実践が行われていることから現状値を見ても全国標準化得点105を上回っている。今後も現状値を維持するためにも、児童生徒への指導の充実とともに余裕をもって業務処理ができるよう、一層の業務内容の精選と対応効率化のための環境整備を充実することが求められる。

**指標** 「校務支援ソフトが校務の効率化に役立っている」と回答した教職員の平均値が3.2ポイント以上(4段階)【独自調査】

教職員の事務作業の効率化にはパソコンの校務支援ソフト等の活用が有効であることは言うまでもなく、導入活用に関する満足度は概ね良好と言える。ただ、各種の複雑なデータの処理作業や情報の更新、共有、保護管理等については専門的な知識・技能を要することもあり、多くの教職員は苦手意識をもつものと思われる。従って、学習支援及び事務作業等のアプリケーションソフトウェアの活用方法について専門家による定期的な説明や動画による説明等のフォローを通して過度の負担感やストレスの解消を進める必要がある。

### ②目標6 学校施設及び設備の充実

**指標** 連続する複数月の期間について、各月の超過勤務時間が80時間を超えない教職員を100%

現状値から中学校における超過勤務の実態が明らかであるため、ワークライフバランスの観点から残業時間の削減を図る必要がある。このため、各学校が学校の自己評価を基にして評価の指標を達成している教育内容、業務内容の見直しを行い削減すること。さらには、各学校では教育活動の精選と重点化による放課後の業務処理の時間確保を進めるとともに、教育内容を担保しながら実態に応じて職員のアイデアや工夫を生かした業務効率化の取組が必要である。

#### IV 生涯教育を充実させる

##### ①目標7 生きがいを育み、活力ある地域社会をつくる社会教育事業の推進

**指標** 生涯学習講座の受講率 90%以上

目標7の「生きがいを育み、活力ある地域社会をつくる」ことは、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の理念につながるものであり、様々な学びの機会において生涯通じて学習できることを担保するものである。このため、現状値から8割の受講率まで回復していることから、今後コロナ前以上のニーズになることも想定される。学びの機会を充実する上で社会教育の環境整備につながることから補助金交付等の財政的支援とともに運営面の充実につながる各組織間の連携協働を進める各施策は適時かつ実情に応じて実施されており評価される。

##### ②目標8 地域・学校・家庭が一体となった青少年健全育成の推進

**指標** 子ども会育成会連絡協議会やその他社会教育団体主催事業の参加者数の増加

青少年健全育成を推進する上では、何よりも青少年の安全・安心を担保することが前提となる。その意味で分館を中心とした安全な事業運営及び関係機関等の情報共有を生かした地域防犯力の向上が4.0評価であることは高く評価できる。このことは、子育て世代の地域の安全・安心に対するニーズとも合致するものであるため組織的な青少年健全育成の継続的な実施が望まれる。

##### ③目標9 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

**指標** 学校・社会体育施設の利用件数、年間1万件以上

高齢化が加速する中で町民の健康づくり・生きがいづくりを推進するため、スポーツに関する研修会やイベント等を通じて情報提供、啓発等を行うことが有効であることは言うまでも無い。その意味で駅伝大会に代わるものとして実施された「スポーツフェスタ」は家族ぐるみの健康増進につながるものとして評価され、関係施設の利用件数の回復も期待される。このような健康づくり・生きがいづくりの機運をさらに高めるため、町内の各施設及びその設備と備品等の情報と利用メニュー、関連イベント等をリンクさせた情報提供を定期的に行うとともに、携帯端末等からのネットを介した申請により施設利用促進が図られることを期待したい。

##### ④目標10 心を豊かにする文化活動の推進と基盤整備

**指標** 社会教育施設の利用件数、来館者数の増加

文化協会主催の「須恵町美術展」、久我記念館での「県立美術館巡回展」など町内、町外の関係施設、団体等と共同した作品展の開催に加え、九州造形短期大学の学生による写真展も開催されるなど、幅広いジャンルの作品展が開催され、住民の文化芸術に触れる機会が拡充されたことは大いに評価される。また、まなびック講座の受講者による作品展も受講者の活動意欲を高め文化活動の啓発推進につながるものと期待される。

##### ⑤目標11 基本的人権が尊重される教育の推進

**指標** 人権・同和教育啓発事業参加者の増加

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ことができることが人権教育の基本であり、誰もがが態度や行動に現れるようになることが求められることは言うまでもない。このことを啓発し人権意識の高揚につなぐ上で啓発映画の上映や講演会を実施することは重要であり、子どもから大人までの多様性を認めながら共生社会を築こうとする意識の醸成につながり「人権が大切にされ、尊重されるまちづくり」を前進させるものである。今後も各事業の内容の工夫、刷新を図りながら継続されることが求められる。

## ⑥目標 12 生涯にわたり学び続け、本と人との橋渡しによる暮らしに役立つ図書館の充実

指標 図書館入館者数 年間 30,000 人以上 貸出冊数 年間 100,000 冊以上

学校に設置された図書館は児童生徒の読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を持っているが、乳幼児から高齢者までが利用する公立図書館も同様に生涯学習への移行、情報ネットワークの整備を背景に様々な図書館サービスを提供している。現状値から入館者数、貸出冊数が回復傾向にあるものと思われる。今後は住民のニーズの多様化に対応できるよう図書館運営の計画、企画事業等の見直しとともに蔵書に係る情報や町史、町勢に係る資料等の公開など図書館サービスの向上を通して住民のうるおいのある生活を充実させることが期待される。

## V 子どもと家庭を支える環境をつくる

### ①目標 13 待機児童の解消

指標 待機児童0人

令和6年10月の須恵みなみ幼稚園開園により受け入れ定員の増員が見込まれることから、今後現状値の改善が図られるものと思われる。また、須恵みなみ幼稚園については通常の幼稚園の開園と異なり長い期間丁寧な開園準備が進められていることから、開園後は幅広い年齢の子どもたちの保育を通して幼保小の架け橋プログラムを策定されることが期待される。

### ②目標 14 多種多様で質の良い保育サービスの確保

指標 実施事業の利用者数を対前年比より増加

質の高い保育サービスの充実は、子育て世代が安心して生活する上で重要な環境整備であり、町への若年人口の流入及び定着にもつながる施策と言える。特に延長保育、病児保育は保護者の勤務内容、時間の多様な状況に対応する保育サービスとして今後さらに充実することが重要である。これらは令和5年12月に閣議決定された「こども未来戦略」で示されているように、2030年までがラストチャンスと言われている少子化対策につながる重要な基盤整備の一つであることからさらなるサービスの拡充が期待される。

### ③目標 15 児童虐待の防止

指標 児童虐待案件の対応率 100%

虐待により受ける影響は児童の精神・行動面にさまざまなかたちで影響を与えることから、虐待の早期発見及び適切かつ迅速な保護と自立支援等が求められる。その意味で日常的な育児相談機能の充実が保護者への積極的支援であり未然防止にもつながることから今後の拡充が求められる。各学校とも連携し適切な情報共有と早期発見のための体制づくりが期待される。